

# I. 事業の状況

## 1 総括

当研究所は、わが国教育の刷新充実に寄与することを目的として、設立以来半世紀にわたり、文部省・文部科学省の管下で、主として初等中等教育の分野で事業を進めてきました。

公益法人制度の改革及び現理事長の新しい体制のもと、平成24年には内閣府より公益財団法人の認定を受け、平成26年には医学・医療 e-ラーニングなど新たな分野へ公益事業を拡大しました。

本年度は次のような事業を行いました。

○ 小・中学校や研究団体への研究助成では、公募をへて小学校2校、中学校3校、2研究団体、1学会に助成を行いました。研究テーマのキーワードを拾うと、「自律・自立を育てる」、「メディア接触時間の自己コントロール」「ソーシャルネットワーク社会の人権教育」「人間形成のための国語科書写」「龍馬の夢と志で特色ある学校づくり」「言語活動の充実」「生き生きと学ぶ算数・数学的活動」「グローバル時代の家庭教育」などでした。

○ 前年度の研究成果は「教育研究情報」誌に掲載し、教育関係の諸機関・諸団体に教育資料として寄贈し、成果の普及を図りました。

○ 野外教育では、自然体験活動の指導者や指導者をめざす人を対象とする講習会を、文部科学省などの後援も得て、長野県や高知県で3回開催しました。また、「野外教育情報」ニュースレターを年2回発行し、関係諸機関・諸団体へ寄贈しました。

○ 医学・医療分野では、e-ラーニングを計画あるいは実施している学会等に対して働きかけを行い、日本癌治療学会、日本外科学会、日本精神科看護協会、日本がんサポーターブケア学会、日本消化器外科学会、日本小児アレルギー学会などの協力を得て、総会・学術集会等の講演・講義の映像コンテンツを収録・編集し、当研究所のMEDI@（メディアット）システムによりネット上に配信しました。その他、日本癌治療学会の「がん医療ネットワークナビゲーター」の資格認定のためのe-ラーニングの管理・運営や、日本泌尿器科学会の専門医単位更新のための講演配信サービスにも携わり成果を挙げつつあります。

○ 視覚障害者を対象とした「世界点字作文コンクール」の共同主催事業については、第14回を実施し、国内・海外部門の表彰者を発表しました。入選作は点字本にて公共図書館に寄贈しました。

今後も公益認定事業の中で着実な展開を図っていく所存ですので、ご指導とご支援をお願い申し上げます。

## 2 助成等事業概要

### A. 研究実践校への助成

《時代の課題に応える研究、教育内容を深める研究、地域に根ざした意欲的な研究に取り組んでいる学校に対して、公募のうえ、助成を行った。》

- ① 特別活動 山形県 <sup>いいて</sup>飯豊町立 第一小学校（校長：山川英俊）  
テーマ 『じりつ（自立・自律）を育てる健康教育』  
要旨 学校の教育目標「可能性に向かって挑戦する力、豊かでたくましい心」を具現化するには、基本的な生活習慣の確立が土台となる。そこで児童の「じりつ」を育成し自らの生活を改善していく指導を進めた。「じりつの時間」「じりつリーダー活動」などの試み、家庭と連携した「じりつ」を育てるPTA研修会の開催、自己管理能力を育てる肥満予防教室の取り組みなどを行った。
- ② 道徳・保健体育・総合学習 大阪府 大阪市長 大宮小学校（校長：伊豆蔵ゆり）  
テーマ 『基本的生活習慣の定着とメディア接触時間の自己コントロールができる子どもの育成』  
要旨 ①自然体験活動や音楽の発表・鑑賞の機会を増やして子どもの五感を磨き、ゲームやスマホ等の擬似体験に向かわないように取り組んだ。②体力向上の取り組みの中で、運動する楽しさに気づき、進んで外遊びをしようとする意欲を持たせ、夜は早く寝て質の良い睡眠を十分にとる習慣を着けさせた。③「早寝・早起き・朝ごはんキッズプロジェクト」に、メディア接触時間を減らす目標を付け加え、生活時間を自己コントロールできる子どもを育成した。
- ③ 人権教育 長野県 佐久市立 <sup>なかごめ</sup>中込中学校（校長：海野善弘）  
テーマ 『ソーシャルネットワーク社会における人権教育のあり方及びその実践的研究』  
要旨 LINEやSNS等のネットトラブル、ゲーム依存による生活習慣の乱れなどに対して、生徒が主体的に自分たちでできる方法で解決できるよう支援を行った。「Saku Kids メディア Safety」団体とタイアップしたアンケートの実施、文化祭で「携帯電話は中学生に必要か」等の意見交流、メディアの使い方を考える全校集会の開催、PTA講演会「ネット社会が我々に与える影響」の開催、生徒会主体で「メディア週間・ノーメディアデー」の全校呼びかけなどを行った。
- ④ 総合学習 静岡県 静岡大学教育学部附属 静岡中学校（校長：村山 功）  
テーマ 『人間形成のための国語科書写の追求』  
要旨 総合的な学習の時間として設定された『追求（書写）』の時間を活用し、生徒一人一人が自己を見つめ、自らの思いを表出する自己肯定感に支えられた書写の表現活動を行った。また、仲間と相談しながら表現の工夫を考えて取り組む「毛筆書制作」の活動を通して、他者との関わりを深めて心を耕し人間形成に寄与する、楽しい共同制作を行った。
- ⑤ 道徳教育 高知県 高知市立 城西中学校（校長：宮田 龍）  
テーマ 『特色ある学校づくり』  
— 龍馬の夢と志は、城西中の生徒の夢と志 —  
要旨 先人坂本龍馬にスポットを当て、「龍馬の夢と志は、城西中生徒の夢と志」として特色ある学校づくりをめざした。時代のニーズに合わせ、防災教育（地震や津波への防災を学ぶ、全校避難訓練の実施など）、道徳教育（龍馬の生き方や考え方を学び、道徳への八策など地域教材を作成）、観光教育（道徳と観光教育を関連させ

た講演会、校区のすばらしさを再発見する写真展開催)、食育教育(龍馬が食べた朝食を地産地消の食材で再現)と関わらせて「その夢と志」を具体的に実践した。

計 1,000,000円

## B. 教育現場(地域研究団体)への助成

《地域等で特色のある研究や実践を行っている研究団体や学会に対して助成を行った。》

### ① 高知県/言語技術教育研究会 代表 梶原和美(香美市立山田小学校教諭)

テーマ 『言語活動の充実を図る言語技術を使った授業展開の研究』

要旨 思考力・表現力を育む「言語活動の充実」を図るため、「言語技術」を使った授業展開の研究と実践を行った。6回にわたる研修会を通して高知県東部地域における教員研修を行い指導力を向上させた。本年度は高知新聞社やNIEホットライン、徳島県NIE教育推進協議会との合同研修会を行い、研修内容の幅を広げた。

### ② 新潟県/コンパスの会(新潟算数・数学教育研究会)

代表 小畑 裕(新潟市立両川中学校長)

テーマ 『児童・生徒が生き生きと学ぶ算数・数学的活動の追究』

要旨 「主体的・対話的で深い学び」を実践し、小・中9か年を見通した教科指導で児童・生徒の学びの力を育もうとしている。個に応じた指導、基礎的・基本的な学力の定着、思考力・判断力・表現力を培う算数・数学的活動の3点から目的に迫った。本年度は、3回の講演会、2回の研究授業、4回の協議・実践発表会を行った。

### ③ 日本家庭教育学会

会長 中田雅俊(八洲学園大学教授)

テーマ 『家庭教育に関する理論的・実践的研究』

要旨 大会主題を「グローバル時代の家庭教育」として第31回大会を開催した。12名の個人研究発表、渥美育子(グローバル教育研究所理事長)氏の講演、丸山敏秋司会による明石純一、鈴木縁、佐藤貢悦各氏のパネルディスカッションなどを行った。他に「家庭教育研究22号」「家庭フォーラム27号」の発行、家庭教育師資格認定、家庭教育学構築の研究会、家庭教育師・家庭教育アドバイザー交流会、会報発行など。

計 500,000円

## C. 野外教育活動の推進

《野外教育活動[とくに自然体験活動]のいっそうの充実と推進に向けて、指導者養成の講習会を実施した。また、自然体験活動に関する情報と実践等を集めた「野外教育情報」ニュースレターを発行し、教育関係の諸機関・諸団体に寄贈し、知見の普及を図った。》

### ○ 野外教育活動の指導者講習会の開催

自然の中で、ゲーム的な要素も取り入れ、子どもたちが楽しく自然体験活動を行える指導方法(アウトドアゲーム)の普及及び、野外教育指導者の養成と指導技術の向上を図る目的で実施した。学校教育・社会教育・学生・民間団体の関係者などを対象に、独自に開発したパッケージド・プログラム(アイオレシート)を教材として使用し、指導方法、安全管理、ゲーム創作などを含めて、実習形式で指導した。次の3つの講習会を開催した。

① 2泊3日コースの講習会 文部科学省・日本キャンプ協会の後援を得て、国立青少年教育振興機構の次の施設において、6人の講師により実施した。1都1道1府11県から26名の参加があった。

平成28年10月8日~10月10日「国立信州高遠青少年自然の家」(長野県伊那市)

② 日帰りコースの講習会 長野県において、現地NPO法人(信州アウトドアプロジェクト、やまぼうし自然学校)の協力を得て県立青少年教育施設で実施した。参加者6名。

平成28年9月22日 「長野県須坂青年の家」(長野県須坂市)

- ③ 1泊2日コースの講習会 高知県において、国立青少年教育振興機構の施設の事業(地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動)と連携して実施した。参加者12名。  
平成28年12月17日～18日 「国立室戸青少年自然の家」(高知県室戸市)

計 1,590,116円

○ 『野外教育情報』ニュースレターの発行・配布

野外教育に関する記事・情報を掲載した、機関誌ニュースレターを年2回発行した。  
平成28年7月には第4号[特集:アイオレ(I O R E)と私]、平成29年2月には第5号[特集:子どもは変わった?]を発行して、教育センター・教育研究所、教育委員会(都道府県・主要都市)、青少年教育施設、小・中学校、大学、野外教育指導者・研究者など、約1,200個所に配布(寄贈)した。

計 1,074,216円

D. 医学・医療教育及び教育技術への研修支援

《医学・医療分野での教育及び教育技術の充実・刷新に寄与するため、インターネットを利用した教育や研修(いわゆるeラーニング)を計画している学会・医療機関・大学等に対して、MED I@ (メディアット)システムの導入と運用、データ管理、コンテンツ等の制作と配信などに対して、支援を行った。》

○ 総会・学術集会等のネット配信のためのコンテンツの制作

次の各医学会の総会・学術集会での講義・講演を収録・編集して、インターネット上に配信するコンテンツを制作し支援した。このうち、オープンコンテンツについては、当財団のホームページ上から視聴することができる。

① 一般社団法人日本外科学会 第116回定期学術集会

平成28年4月14日～16日に、「新しい外科学の価値を創造する」をテーマに、大阪の国際会議場等において開催された。「新専門医がもたらす外科医の未来」(北川雄光)、「新消化器外科専門医制度の現状と展望」(森 正樹)など、7講義について収録のうえ配信した。

② 一般社団法人日本精神科看護協会 第41回学術集会

平成28年6月10日～12日に、岩手県の盛岡市民文化ホール等で、「こころの健康を通して、だれもが安心して暮らせる社会の実現に向けてー精神科看護のチャレンジー」を主題として開催され、5講義について収録のうえ配信した。

また、東京都品川区の協会常設研修施設において、「倫理問題に潜んでいる10場面の説明(吉川隆博)」など8講座を収録のうえ配信した。

③ 一般社団法人日本がんサポーターケア学会 第1回学術集会

平成28年9月3日～4日に、東京都港区の東京慈恵会医科大学で「副作用を制するものはがん治療を制するー医はいたわりの心から始まるー」を研究テーマとして開催された。会長講演(相羽恵介)、シンポジウム、患者・医療職ワークショップ、各部会報告(サイコオンコロジー部会、痛み部会、高齢者がん治療部会……)など、39講義について収録のうえ配信した。

④ 一般社団法人日本癌治療学会 第54回学術集会

平成28年10月20日～22日に、横浜市のパシフィコ横浜において「成熟社会における、がん医療のリノベーション」をテーマに開催された。「社会とともに歩む日本癌治療学会」(北川雄光)、「分子標的治療薬の皮膚障害とその対策(吉川周佐)」など、16講義について収録のうえ配信した。

⑤ 一般社団法人日本消化器外科学会 : 第40回国際外科学会世界総会

平成28年10月23日～26日に、京都市で開催された。「Medical Safety in Europe Frank P.Schulze」「Proclamation for medical safety Ken Takasaki」など、23講義について収録のうえ配信した。

⑥ 一般社団法人日本小児アレルギー学会

奈良市において、「学校における食物アレルギーへの対応」（南部光彦）など3講義について収録のうえ配信した。

○ 資格認定のためのeラーニングの構築・運用

がん医療情報の国民への提供とその制度の確立をめざし、国民の福祉に貢献することを目的に、地域でのがん医療情報を収集・提供する「がん医療ネットワークナビゲーター」を養成するため、一般社団法人日本癌治療学会に協力して、その資格認定のためのeラーニングシステムの推進につとめ、コンテンツの制作、受講料決済システムの構築・収納、ホームページの整備等を支援した。

○ 学会の専門医養成のためのeラーニングへの支援

一般社団法人日本癌治療学会が運営する「がん医療を専門とする医師・チームスタッフのためのeラーニングプログラム」(CANCER e-LEARNING)のコンテンツの制作と配信、一般社団法人日本泌尿器科学会の専門医単位更新を目的とした講演配信サービスのためのeラーニングシステムの整備、視聴履歴の管理、コンテンツの制作などに協力した。

計 27,710,240円

E. 研究報告誌の刊行・配布

《前年度に研究助成を行った研究成果を掲載した研究報告誌を年1回発行し、教育関係の諸機関・諸団体に寄贈し、成果の普及を図った。》

『教育研究情報』第48号(研究実践校・研究団体・学会の研究成果と実践報告を掲載)を平成28年10月に発行し、教育センター・教育研究所、教育委員会、大学、小・中学校の一部など、教育関係の諸機関・諸団体約800個所に配布(寄贈)した。

計 767,670円

F. 世界点字作文コンクールへの支援

《視覚障害者の方々に点字と音声の架け橋を築く願いをもって、毎日新聞社点字毎日・オンキヨー株式会社との共催で、第14回コンクールを実施した。》

国内部門では、応募総数145編を選考の結果、最優秀オーツキ賞には茨城県の小学部6年生の永井慶吾さん、「作詞賞」には東京都の田崎博基さんが受賞した。

海外部門では、アジア・太平洋地域8か国24編、西アジア・中央アジア・中東地域12か国39編、ヨーロッパ地域19か国51編、北米・カリブ地域2か国30編の応募があり、それぞれ選考を行い優秀作品を表彰した。入選作品集は全国の公共図書館などに寄贈した。

計 4,000,000円

G. 調査研究・開発

医学・医療従事者のインターネットによる学習・研修を支援するため、eラーニングの利用を計画している学会・団体等の調査、eラーニングの利用促進を図るための学会や団体への働きかけなどを、業務委託により行った(4～5月の2か月間)。

計 600,000円

H. スポーツによる教育：ゴルフアカデミー

この事業は、本年度は休止している。

[その他、国際交流研修]

中華人民共和国の医師・看護師をわが国に招き、東京女子医科大学等で3か月程度の医療研修を実施する医療交流研修を試行した(法人会計による)。